

孫への愛、つづり雛展

春日市の松本さん (高12回)

春日市泉の創作人形作家、松本久翠さん(本名・久美子さん、高12)が平成22年1月、太宰府市宰府の太宰府館で「つづり雛(ひな)展」を開いた。つづり雛はこけし状のお雛様の胴体部分が巻物のようになっている、メッセージや詩歌などが書けるのが特徴。このユニークな雛人形は今年、中学3年生になった孫の一歳の誕生日に何かオリジナルなものを作りたいと考えたという。



つづり雛展を開いた松本さん。写真右下は、胴体が巻物状のユニークな雛人形

女性、いくつになっても、お雛様の季節を迎えると、幼い頃を懐かしく思ったり、華やいだ気持ちになるもので、

13年前、この物が豊かな時代に、何か私だけの贈り物ができないものかと思つた時ふと考へてつづり雛の巻物をヒントに、メッセージが書けるお雛様でした。「つづり(綴り)雛」とネーミングしました。素材で可愛い評判を得て、展示は今年で8回目。会場づくりや飾りつけの帯を提供してくれるのが高校時代の友人です。(高12 松本久美子)

ち、お客様の対応はボランティアの仲間、嫁・姉そして夫にも支えられています。その孫が久しぶりにもらつた雛の巻物を開いて、1歳時代の自分の手形に「うあー! 小ちゃくてカワイイ」とすごく喜んでる姿にうれしくなりました。

若い力で総会盛り上げ

アンダー33の会、熱い交流

「アンダー33の会、つてなに？」という方もおられるでしょう。高30回の先輩たちが、若手の同窓会活動が一層活発になるようにと、総会幹事年以下の学年を対象に参加を呼びかけたのが「アンダー33の会」です。今年33回生が幹事となり、2月13日に博多エクセルホテル東急(博多区中洲)で、「アンダー33の会」として開かれました。

最初に47歳から18歳までの幅広い年代の参加者79人が、9班に分かれて「同窓会総会をこうしたい」というテーマで意見を交換。次いでお楽しみ懇親会。「アンダー33の会」も今年で4回目。すでに顔見知りになった人も多く、久しぶりの再会に笑顔がいっぱい。

職域同窓会

我が町発展も願ひ

福岡市役所筑紫会館は、市役所に勤務する筑紫中学・筑紫丘高校卒業生などの相互の親睦を目的として、昭和43年9月に会則を制定して活動を始めて以来、今年で42年目を迎える伝統ある親睦会です。

市役所の職員数は1万5000人ですが、筑紫会の会員数は平成22年3月現在で242人となっております。

本会の活動状況ですが、会則に「本会は会員相互の親睦を図ることを目的とする」と謳っており、毎年7月初旬に総会を開催するほか、会員の相互扶助として慶弔見舞金の支給などを行っています。活動の中で最も大きな事業は、総会後に引き続き開催される懇親会となります。毎年70人ほどの参加があり、来賓として福岡市長をお招きし、また、

松原桜賞

▽福岡市長賞
はるかぜにまはるはなびらをつかまえて
こころのなかにほるをしまつた
(1年、金子有喜)

▽松原桜賞実行委員長賞
ひだり手で包むみぎ手が愛しくて
火花散りゆく夜空なつかし
(1年、進藤卓也)



入賞した金子さん(右)と進藤くん

短歌の交換によって伐採を免れた松原桜(福岡市南区松原1丁目・松原桜公園)を、短歌で語り継ごうと創設された「松原桜賞」(同賞実行委員会主催)の「学生部」(入賞5点)に本校1年(現2年)の2人が入賞した。

表彰式は3月28日、満開の松原桜の下で行われた。短歌募集には全国から4108首(2267人)が寄せられた。「一般部」と「学生部」の2部門に分かれて審査された。同賞は今回が第一回で、南区役所からも要請があり、本校では1年生の国語の授業で取り上げ、生徒全員に詠んでもらい応募した。その

結果、金子有喜さんが大賞に相当する福岡市長賞を獲得、進藤卓也さんが松原桜賞実行委員会賞に選ばれた。

松原桜はソメイヨシノの並木で、1984年、道路拡幅のため伐採されることになったが、住民の1人が「花あわれせめてはあと二旬ついで開花をゆるし給え」と書いて枝に掛け「助命」を嘆願。これを知った当時の進藤一馬市長(故人)が「桜花惜しむ大和心のうるわしやとわに匂わん花の心は」と

と返歌し、計画を変更して公園化した。

金子有喜さんの話 短歌をつくつたのは今回が初めて。なかなか思いつきませんでした。毎年見ている桜を思い浮かべて作りました。そんな作品が市長賞に選ばれ、びっくりしました。みんなからおめでとうと言ってもらえて嬉しかったです。

進藤卓也さんの話 今までも何かに応募しても当選することなどなく、とても驚きました。自分の歌のどこが良かったかはイマイチ分かりませんが、一つ一つの言葉が調和すること、人に感動を伝えるということを知りました。

ドと言えるようです。締めは34回生の岩崎郁夫さんの音頭で万歳三唱。再会を約束して散会となりました。

また同じテーブルになったのも縁と、人脈づくりに励む姿もみられました。

懇談の途中で、「若い人たちが参加したい総会とは?」について各班ごとに発表を行いました。いろんな意見が出されましたが、「新しい出会い」「旧交を温める」「集まることで元気になる」「インターネットなども使って多方面に情報発信を」「人と人とのつながりが大切」などがキーワードになりました。

今年の総会のテーマは「笑顔」。皆さんの笑顔のもとになる同窓会総会になるよう一杯、幹事の役割を果たしたいと思ひます。(高33 金子りか)

本校出身でありかつ本会の顧問をお願いしております福岡市議会議員(現在8人)や同窓会事務局の方にご参加いただいております。

さて、福岡市はイギリスの雑誌「MONOCLE」(09年)で「世界で最も住みやすい都市トップ25」で16位に選出されるとともに、「Newsweek」誌(06年)では「世界で最もホットな10都市」の一つに選ばれたことを御存知でしょうか。私たちの母校がある福岡市が世界の中で評価されたことは、卒業生としても非常に嬉しく思ひ、また、誇りでもあります。

私たち筑紫会会員は、今後とも母校の発展・躍進に寄与し、また福岡市のために、市民の皆さんや他の職域で活躍されておられます同窓生の皆さんと力を合わせて頑張りたいと考えております。(高34 竹中良孝)

OB・OG会

バスケットボール部

筑紫丘高バスケットボール部は創部80周年を迎え、今年1月3日、恒例のぜんざい会の日記念行事を行いました。長い歴史の中には県大会やインターハイ出場もあれば、戦績が振るわなかった時期もあります。卒業後も大学や社会で大活躍された方もいれば、バスケットは高校までという方もいますが、その一人ひとりの努力が積み重なって80周年との思いで多数のOB・OGが参加しました。

OB・OG会である筑紫会は年間の行事として、1月3日のぜんざい会、3月の総会、春と秋の社会人バスケットボール大会リーグ戦、9月は35歳以上のOBが参加する壮年バスケットボール大会、12月は忘年会を行っています。行事予定はメールにてその都度連絡しますので、OB・OG

の方々、お気軽に参加をお願いします。メールアドレスを連絡ください。

人生で最も多感な時期である高校の3年間を、バスケットボールを通じて共有したという貴重な財産を今後受け継いでいきます。(高25 佐伯敏道「バスケットボール部OB・OG会 筑紫会会長」)

「反権力」の美術家
山内重太郎さん逝去

大衆のエネルギが爆発した「60年安保」の時代、「反権力」「反芸術」の旗印を掲げて疾駆した九州派の一人、美術家の山内重太郎さん(高1)が、昨年11月鬼籍に入った。80歳。

山内さんは昭和33年、西日本洋画新人秀作展に「サビツイタ裸女」で金賞を獲つた。その後、墨絵やコラージュ(貼り絵)、版画などへと増幅。またアジア、韓国との版画展や日米国際交流展へと軸足を伸ばす。

絵だけでなく漢籍にも造詣が深く、名筆だった。1か月前に逝つた比翼連理の仲の友人を慕うように布団の中で眠っていた。筑中の頃からの友人原正弥さんは「筆マメで人をとても大事にした稀有の人だった」と悼んだ。(中18 大谷希幸)



バスケット部創設80周年記念参加者

印刷機のご利用を 関孝成氏(高8 常任幹事)から、同窓会に印刷機を寄付していただきました。20枚以上の印刷だとコピーより安上がりです。各回同窓会案内や、資料の作成などでの活用ができますので、ご希望の方は原稿と印刷用紙をご持参ください。

会議室のご利用を 同窓会事務局の会議室は、20名程度の会合をすることが出来ます。同窓会の打ち合わせ、部会活動などに利用を。なお、ご利用は月、水、金曜の開局日のみです。(同窓会事務局)